

レルゴリクス錠を使用した GnRH アンタゴニスト法 ～注射薬との比較～

【目的】当院では、GnRH アンタゴニスト法において注射薬のセトロレリクス（セトロタイド 0.25mg）又はガニレリクス（ガニレスト 0.25mg）を用いてきた。2019年3月発売されたレルゴリクス（レルミナ 40mg）は内服投与かつコスト面からも期待される薬剤である。今回、注射薬と比較しその有用性を検討した。

【方法】2010年12月～2019年11月に注射薬を用いた群（SG群）229周期、2019年11月～2020年4月にインフォームドコンセントを得られたレルゴレクスを用いた（R群）13周期を対象とした。両群ともに月経周期1-3日目より rFSH 製剤を連日投与、卵胞径が14-15mm に達した時点から GnRH アンタゴニスト製剤と hMG 製剤を採卵前々日まで連日投与。

【成績】SG群とR群において、平均年齢（才）は 33.1 ± 3.7 ・ 33.2 ± 3.5 、AMH（ng/ml）は 7.85 ± 4.61 ・ 8.37 ± 4.43 で有意差は認めなかった。採卵前々日の、LH（mIU/ml）は 1.1 ± 1.0 ・ 1.0 ± 1.0 、E2（pg/ml）は 2533.2 ± 1591.9 ・ 2166.2 ± 747.9 で有意差は認めず、P4（ng/ml）は 0.93 ± 0.41 ・ 0.47 ± 0.29 とR群で有意に低かった。採卵数は 13.7 ± 7.2 ・ 9.7 ± 5.5 とSG群で有意に多かったが、ロジスティック解析では有意差を認めなかった。MII卵数は 11.2 ± 6.0 ・ 8.9 ± 4.0 、受精卵数は 9.1 ± 5.6 ・ 7.5 ± 3.5 で有意差は認めなかった。また両群において早発排卵はなかった。Day3 良好胚数は 5.7 ± 4.3 ・ 4.8 ± 2.0 、良好胚盤胞数は 4.4 ± 3.5 ・ 2.4 ± 1.8 、臨床妊娠率は 43.5%（177/407）・25.0%（2/8）で有意差を認めなかった。

【結論】レルゴリクスは GnRH アンタゴニスト法において注射薬と同様に有用であることが分かった。